



# 菅 生 つ 子

平成29年7月3日発行

梅雨らしく雨天の日や、湿度が高く蒸し蒸しする日が多い今日この頃ですが、保護者の皆様にはご健勝にてお過ごしでしょうか。

さて、子どもたちが楽しみにしている夏休みまで、あと二週間余りとなりました。4月から7月までの子どもたちの学校での様子について、7月12日(水)～14日(金)の個人懇談会でお話したいと思っています。よろしくお願いします。

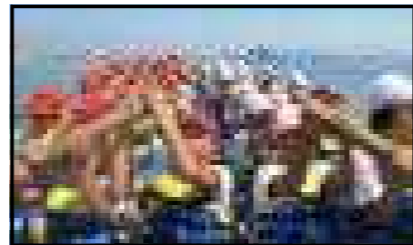
## ☆ 5年生が「海の学習」に行きました ☆

5年生は6月19日(月)から20日(火)にかけて岡山県渋川青年の家での「海の学習」へ行ってきました。初日の活動は、入所式を済ませた後、渋川海岸でお弁当、そして、海岸での「カッター訓練」、「いかだ遊び」、「砂の芸術」、夜の「ウミホタルの観察」、「貝殻の写真立て作り」と続きました。2日目は、「地引き網」を行い、退所式を済ませ、帰路につきました。県内の多くの5年生の児童は、渋川青年の家での「海の学習」に参加しています。5年生の保護者の皆様には、準備等いろいろお世話になり、ありがとうございました。



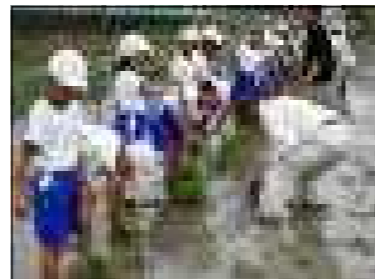
海の学習に行く前は、こわくて心配だったけど、思っていたよりずっと楽しい経験ができました。カッターのリーダーはとても大変だったけど、がんばりました。地引き網では、ヒラメがとれてうれしかったです。知らない学校の人とも友達になれて、よかったです。カッター学習は苦しくて大変だったけど、みんなと協力して最後にゴールしたときには、「成長できたなあ。」と思いました。5年A組児童

海の学習を終えて、今の気持ちは「とても気持ちいい。」です。二日間の活動が全部終わると、とてもすっきりしました。この海の学習で学んだことは、「心を一つにすれば大変なことでもできる。」ということです。海の学習で成長できたことは「あいさつ」です。知らない人に思い切りあいさつをしたら、その知らない人もあいさつを返してくれました。そのときはとてもすっきりしました。海の学習はとても楽しかったです。この経験を学校でも生かしたいです。5年B組児童



## ♪ 5年生が田植えをしました ♪

6月27日(火)に、5年生が総合的な学習の時間「わくわくタイム」で、下の運動場横の田んぼで田植えをしました。毎年の学習で、JA岡山西菅生支店のみなさんにお世話になり、稲刈り・餅つきへと続きます。JA岡山西菅生支店のみなさん、今年の5年生の子どもたちもお世話になりますが、どうぞよろしくお願いいたします。



田植えが半分ぐらいすんだころ、だんだん楽しくなってきました。どろでよごれるのもなれて、いやなくなってきました。お米を作るのが、こんなに大変だと知ってびっくりしました。これからはご飯を残さずに食べたいです。はじめての田植えでした。とってもいい思い出になりました。JAのみなさん、本当にありがとうございました。5年生

## ♪ なかよし週間(パート1)を行いました ♪

菅生小学校では、6月5日(月)～16日(金)の二週間が「なかよし週間(パート1)」でした。テーマは「みんななかよしすごうっ子 ～なくそうちく言葉・ちくちくアクション」(一週目)と「みんななかよしすごうっ子 ～ふやそうふわ言葉・ふわふわアクション」(二週目)でした。「ありがとう!」とか「じょうずだね!」、「頑張ったね!」などという言葉は、子どもも大人も「言われてうれしい気持ちにする言葉」で、本校では「ふわふわ言葉」と呼んでいます。(反対に「言われたり、聞いたりして、いやな感じがする言葉」を「ちくちく言葉」と呼んでいます。)  
「ふわふわ言葉」や「ふわふわアクション」を葉っぱに書いて「すごうっ子ギャラリー」に掲示してみんなに紹介しました。



6月5日(月)のなかよし集会(体育館)では、「ちくちく言葉」や「ふわふわ言葉」などについて教師が寸劇をしました。相手の気持ちを考え、失敗を責めたり、人をからかったりする「ちくちく言葉」や「ちくちくアクション」は使わず、「ふわふわ言葉」・「ふわふわアクション」でいっぱい菅生小学校・菅生っ子になってほしいと願っています。

〈なかよし週間を終えての感想より〉だれかにほめられたりだれかをほめたりして、たのしいなかよし週間になりました。おわってもつづけていきたいです。2年生

〈なかよし週間を終えての感想より〉自分が良いことをしたら、相手と自分の両方が良い気持ちになるということがわかったので、これからも「ふわふわ言葉」を使いたいと思いました。そして、「ちくちく言葉」を言わないように心がけようとも思いました。6年生

## 日々の暮らしの中で心が育つ子どもたち!

なかよし週間(パート1)では、「ふわふわ言葉・ふわふわアクション」を木の葉型のカードに書き、それを集めて全校でなかよしの木をつくりました。そこには、「はさみを貸してくれました。」「手紙を落とした時に、すぐに拾ってくれました。」「プリントのヒントを教えてくださいました。」「掃除の時に机を運んだら、お姉さんにありがとうと言われました。」など、うれしかった経験がたくさん集まりました。

日常のほんの小さな出来事ですが、してもらってうれしいと感じることは、次の行動へのエネルギー源になります。こうした経験から「鉛筆を拾ってあげて、すがすがしい気持ちになりました。」「友達がこけた時、大丈夫と言ってあげました。」など、してあげられることがどんどん増えるように思います。

また、「〇〇さんが、たくさん手を挙げていました。」「〇〇さんが、算数の問題をすらすら書いていたのすごいです。」「〇〇さんが、一輪車ができるようになってすごいです。」「〇〇さんが、そうじをがんばっていました。」「体力テストの時、〇〇さんが1年生のお世話をしていました。」のように、友達ががんばっている姿に気づき、それを褒める言葉もたくさん集まりました。

中には、「〇〇さんが、いつも自分から挨拶をしていたので、僕も見習いたいと思いました。」「〇〇さんがたくさん配っていたので(クラスの配り物)、私がんばってたくさん配り物ができました。」のように、友達の良い所に触発され、自分も人の役に立つことができるようにならなうとする姿も見られました。

さらに高学年になると、「友達とけんかをした時、私が謝ると、『本当にごめん。』と謝ってくれたのでうれしかったです。」など、人間関係を保つために折り合いをつけていく経験もできています。

これらは学校生活のほんの一コマですが、こうした経験を積み重ねて、菅生っ子たちが、ますます心豊かに成長してくれることを期待しています。と同時に、ぐんぐん伸びる子どもたちをしっかりと褒めていきたいです。校長 千葉 照久

